

2023.6.24 (第3版)



第38回 ソフトウェア技術者協会 総会

日時： 2023年6月20日（火）18:00～19:00

場所： オンライン（Zoom）

議題：

第一号議案 2022年度事業報告

第二号議案 2022年度決算報告

第三号議案 2023年度事業計画

第四号議案 2023年度予算審議

第五号議案 役員改選

第一号議案 2022 年度事業報告

例年通り、ソフトウェア・シンポジウム 2022 を開催した（開催場所は盛岡で、ハイブリッド開催とした）。その他、フォーラムや各種分科会活動を積極的に行った。

ソフトウェア・シンポジウム 2022 の概要は次のとおり。

第 42 回 Software Symposium 2022

期日：2022 年 6 月 8 日（水曜日）～ 10 日（金曜日）

会場：ハイブリッド開催（オンライン&現地：いわて県民情報交流センター）

参加者：100 人

実行委員長：漆原 憲博（ジェーエフピー）、野村 行憲（ワイノムラドットコム）

プログラム委員長：岡本 圭史（仙台高等専門学校）、小田 朋宏（SRA）

ワーキング・グループ：6

チュートリアル：2

論文・Future Presentation・報告セッション：13

（研究論文 4 本，経験論文 6 本，事例報告 1 本，FP 2 本）

フォーラムの開催実績は次のとおり。

2022.04.26 SEA Forum in Apr. 2022

新しい品質保証のかたちを目指して

2022.05.27 SEA Forum in May 2022

連続セミナー『ハザードとレジリエンスの分析の新潮流 STAMP と

第 2 回 STPA in a nutshell - はじめようハザード分析 STAMP/STPA -

2022.06.29 SEA Forum in June 2022

ウォーターフォール開発は実在したのか？

2022.08.05 SEA Forum in Aug. 2022

第 3 回自然言語処理連続セミナー

大規模自然言語モデルは汎用 AI (AGI) に繋がるか - 自然言語処理分野の最近の動向 -

2023.02.20 SEA Forum in Feb. 2023

デジタル田園都市国家構想に実現に向けて

～ソフトウェア技術者の役割を考える～

2023.03.27 SEA Forum in Mar. 2023

AI とシステム品質・ソフトウェア工学の現在地と未来

分科会では、SoS 分科会、ソフトウェア信頼性分科会 (FORCE)、ソフトウェア品質保証分科会、プロセス設計分科会、教育分科会が定期ミーティングやイベントを開催した。

支部活動では、北海道支部、関西支部が定期ミーティングやイベントを開催した。

国際交流に関しては、海外との行き来ができないこともあり、企画の検討は断念した。

情報発信としては、WEB/メールと SEA MAIL を用いている。

メールについては、「SEA 事務局通信」として、SEA のイベントの案内、後援/協賛をしているイベントの案内を中心に、タイミングよく発信をした。

SEA MAIL として、次の 2 つを発行した。

2022-2023

SEA MAIL vol. 23 no. 4-6

編集部から

- フォーラム報告 デジタル田園都市構想の実現に向けて
～ソフトウェア技術者の役割を考える～
端山 毅 (NTT データ, PMI 日本支部会長)
中野 秀男 (中野秀男研究所), 野村 行憲 (ワイノムラドットコム)
中谷 多哉子 (放送大学)
- フォーラム報告 AI とシステム品質・ソフトウェア工学の現在地と未来
徳本晋 (富士通)
- フォーラム報告 ChatGPT プロンプト入門
酒匂寛 (Designer' s Den)

SEA MAIL の再刊後の一覧については、次を参照方

・ <https://sea.jp/blog/category/seamail/>

幹事会、支部活動、SIG 活動、ソフトウェア・シンポジウム、フォーラムなどにおいて、リモートで参加できる環境を提供するために、Zoom (Charge Name: Standard Pro Annual, Quantity:1) と Dropbox (Professional) を継続で契約を更新し、活用した。

決 算 報 告 書

(第 37 期)

自 2022年 4月 1日
至 2023年 3月31日

ソフトウェア技術者協会

電話： - -

貸借対照表

2023年 3月31日 現在

ソフトウェア技術者協会

(単位： 円)

資産の部

【流動資産】

現金及び預金	6,635,970	
流動資産合計		6,635,970
資産の部合計		6,635,970

負債の部

負債の部合計		0
--------	--	---

純資産の部

【株主資本】

利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	6,635,970	
その他利益剰余金合計	6,635,970	
利益剰余金合計	6,635,970	
株主資本合計		6,635,970
純資産の部合計		6,635,970
負債及び純資産合計		6,635,970

損 益 計 算 書

自 2022年 4月 1日
至 2023年 3月31日

ソフトウェア技術者協会

(単位： 円)

【売上高】

売 上 高	704,000	
売 上 高 合 計		704,000
売 上 総 利 益 金 額		704,000

【販売費及び一般管理費】

販売費及び一般管理費合計		573,192
営 業 利 益 金 額		130,808

【営業外収益】

雑 収 入	55	
営 業 外 収 益 合 計		55
経 常 利 益 金 額		130,863
税引前当期純利益金額		130,863
当 期 純 利 益 金 額		130,863

販売費及び一般管理費内訳書

自 2022年 4月 1日
至 2023年 3月31日

ソフトウェア技術者協会

(単位： 円)

会	議	費	193,905		
通	信	費	220,467		
寄	付	金	100,000		
雑		費	28,820		
支	部	支	援	費	30,000

販売費及び一般管理費合計

573,192

監査報告書（写し）

監査報告書

私は、ソフトウェア技術者協会の2022年4月1日から2023年3月31日までの会計年度における会計業務の監査を行いました。

監査の方法については、帳簿ならびに関連書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確さを検討致しました。

その結果、貸借対照表、損益計算書、販売費及び一般管理費内訳書は、会計帳簿の記載金額に基づいて作成され、協会の収支状況及び財政状態を正しく示しており、適法かつ正確であることを認めました。

2023年 6月 16日

ソフトウェア技術者協会

会計監事 乗松 聡

第三号議案 2023 年度事業計画

実務を各幹事で分担する運営体制を維持し、より積極的に会の活動を行っていく。また、会員相互のコミュニケーションを促進する。

1. 会員数

現正会員数：146 人

新規会員（昨年度）：8 人（一昨年度 4 名）

名誉会員：10 人

会費未納の会員については、継続の確認を行う。

新規会員を増やすための施策を検討する。

2023 年度（2023 年 4 月～）に入ってから 4 名の新規会員が入会。

分科会、シンポジウムをきっかけに入会する方が多い。

2. 活動計画

(1) フォーラム

- ・方針：フォーラムの企画と運営を組織的な取り組みとする。
- ・内容：個別テーマと連続テーマの 2 つに分ける。連続テーマについては、数年かけてフォローする。
- ・狙い：良質な議論の場としての認知を広げる。SEA としての知識の蓄積。
- ・方法：内容、講演者からのリクエスト、社会情勢などから、集合、オンライン、ハイブリッドの中から適切な方法を選択する。
- ・連続テーマ案：
データサイエンス、AI（強化学習）、DX、ブロックチェーン／分散データベース、セキュリティ、信頼性／安全性、プロジェクト・マネジメント
- ・今年度の連続テーマの計画（継続）：
 - 「自然言語処理」連続セミナー
 - 「ハザードとレジリエンスの分析の新潮流 STAMP と FRAM」連続セミナー

(2) 特別フォーラム

SEA のコミュニティ以外のより幅広い方々へ SEA の存在と活動内容を知ってもらおうという目的で、特別フォーラムを開催する。年度毎の開催頻度や開催方法については、幹事会で検討する。

(3) 支部活動，分科会活動の強化

現在，以下の9つの支部と分科会が設置されている，活動している支部／分科会もあるが，休眠状態の支部／分科会もある。

支部活動：

- 上海支部
- 九州支部
- 北海道支部
- 北陸支部
- 名古屋支部
- 広島支部
- 東北支部
- 横浜支部
- 関西支部

分科会活動：

- 環境分科会 (SIGENV)
- 教育分科会 (SIGEDU)
- ソフトウェアプロセス分科会 (SPIN)
- フォーマルメソッド分科会 (SIGFM)
- ソフトウェア品質保証分科会 (SIGSQA)
- ソフトウェア信頼性研究会 (FORCE)
- システムオブシステムズ分科会 (SIGSoS)
- プロセス設計分科会 (SIGPD)
- オープンソース分科会

支部活動，分科会活動は，国内外のソフトウェア技術者の交流の場として大切なものなので，この2つの活動を積極的に支援する。具体的には，イベント開催の相談や活動費用の提供を行う。

また，新規に立上げを予定している支部活動，分科会活動があれば，積極的にサポートする。具体的には，ソフトウェア・シンポジウムのワーキング・グループやチュートリアルリーダーやメンバに，議論を継続する場として提供できる事を伝える。また，興味深い活動をしている方々がいれば，SEA 会員になっていただいたうえで，支部活動や分科会活動で実践することを提案する。

さらに，支部活動，分科会活動の発信力を強化するために，独自の Web サイトを立ち上げることも支援する。現在，独自の Web サイトを持っている活動は以下のとおりで

ある。

支部活動： 北海道支部，東北支部，関西支部

分科会活動：教育分科会 (SIGEDU)，ソフトウェア信頼性研究会 (FORCE)，
システムオブシステムズ分科会 (SIGSoS)
プロセス設計分科会 (SIGPD)

(4) 今年度のイベント計画

6月 ソフトウェア・シンポジウム 2023 in 仙台（ハイブリッド開催）

10月 第37回 SEA 教育ワークショップ 2024（兵庫県赤穂市）

12月 ソフトウェア信頼性研究会第17回ワークショップ（奈良県奈良市）

1月 第32回 SEA 新春教育フォーラム 2024

(5) 国際会議の企画

今までの関係と実績のある韓国，中国，台湾，ミャンマー，ベトナムなどとの国際会議を中心に，企画の検討を開始する。

(6) SEA MAIL の電子版の発刊

SEA フォーラム開催時に報告書作成担当を決め，SEA フォーラムの実施記録を SEA MAIL として発行できるようにする。また，幹事会で SEA MAIL への投稿を呼びかけ，持ち回りで担当することを検討する。

(7) 幹事会

基本的には，毎月1回開催する予定で開催スケジュールをたてる。

3. 審議事項

ソフトウェア・メンテナンス研究会 (SERC) の SEA 分科会への移行について

申し出の骨子

ソフトウェア・メンテナンス研究会 (SERC) は，目下，33年面の活動中。この数年間，技術的負債を研究テーマとして，シンポジウムやフォーラムの開催，SEA のソフトウェア・シンポジウムの WG への参加を継続しているが，会員数の減少で今後これまでと同じような活動を継続することが難しい状況である（現在，個人会員 15 名）。そこで，当研究会を SEA の分科会に移行し，これまでの SERC の知見の蓄積を，SEA の現会員と共有することで，活動と成果をより発展させる。

第四号議案 2023年度予算審議

予算案

自 2023 年 4 月 1 日
至 2024 年 3 月 31 日

支出の部		収入の部	
事務委託費	500,000	新入会費	60,000
印刷費	0	更新会費	600,000
通信費	150,000	賛助会費	100,000
会議費	0	イベント収入	0
旅費支援	250,000	雑収入	1,500
支部・SIG支援費	500,000		
国際活動費	200,000	資産からの繰入	1,240,000
会議室費	320,000		
雑費	50,000		
予備費	31,500		
合計	2,001,500	合計	2,001,500

予算書に関する註記

資産から、124万円を今年度繰り入れ、イベント開催費用とする（対応する支出側は、支部・SIG支援費、国際活動費他である）。なお、イベントが具体化し、費用に増減が予定される場合、各支出科目の費用振り分けを変更する案を作成し、幹事会で決議するものとする。

第五号議案 役員改選

役員（案）

代表幹事

本多慶匡

幹事（五十音順）

安達賢二 荒木啓二郎 石川雅彦 伊藤昌夫 小笠原秀人

岡本圭史 小川明彦 落水浩一郎 岸田孝一 熊谷 章

栗田太郎 小林 修 小松久美子 酒匂 寛 杉田義明

鈴木裕信 玉井哲雄 富松篤典 中谷多哉子 中野秀男

中山優紀 奈良隆正 野中 哲 野村行憲 端山 毅

平尾一浩 三輪 東 宮田一平 米島博司

会計監事

中森博晃 乗松 聡

名誉会員

荒木啓二郎 岸田孝一 熊谷章 玉井哲雄

中野秀男 松原友夫 山崎利治 落水浩一郎

杉田義明 奈良隆正

以上